

実力アップ! 日本語能力試験 1級

松本節子 + 星野恵子



北京语言文化大学出版社

執筆者紹介

松本節子 (*Setsuko Matsumoto*)

慶応義塾大学文学部卒業。

言語文化研究所付属東京日本語学校(長沼)、文教大学言語文化研究所講師、国際教育振興会(日米会話学院)日本語研修所講師を経て、現在、データメーションマイ代表。

E-mail: setsuko.matsumoto@yuki.net

日本語のホームページ <http://www.yuki.net/cybernihongo>

星野恵子 (*Keiko Hoshino*)

東京芸術大学音楽学部楽理科卒業。

名古屋大学総合言語センター講師を経て、現在、ヒューマン・アカデミー日本語学校東京校講師・アドバイザー。

実力アップ!
日本語能力試験
1級

松本節子＋星野恵子

北京語言文化大學出版社

(京)新登字 157 号

图书在版编目(CIP)数据

提高实力! 日语能力试验1级/(日)松本节子、星野惠子编著.

—北京:北京语言文化大学出版社,2002

ISBN 7-5619-1052-5

I. 提…

1. ①松…②星…

II. 日语-水平考试-自学参考书

IV. H360.42

中国版本图书馆CIP数据核字(2002)第019173号

著作权合同登记号图字:01-2002-1174

责任印制:乔学军

出版发行:北京语言文化大学出版社

社址:北京市海淀区学院路15号 邮政编码100083

网 址:<http://www.blcup.com>

<http://www.blcu.edu.cn/cbs/index.htm>

印刷:北京师范大学印刷厂

经销:全国新华书店

版次:2002年5月第1版 2002年5月第1次印刷

开本:787毫米×1092毫米 1/32 印张:9.875

字数:187千字 印数:1—5000册

书号:ISBN 7-5619-1052-5/H·02026

定价:23.00元

发行部电话:010—82303651 82303591

传真:010—82303081

E-mail:fxb@blcu.edu.cn

前言

本书是日本 UNICOM 出版社出版的“日本语能力试验”速成自学用书(1级·2级共两册)。本书由北京语言文化大学出版社自日本引进,照相制版,原书原貌。

本书特点:针对外国人学习日语的难点编写,解说极为简明,让读者主要通过研读例句、做练习来掌握常用词语和惯用型的用法。

本书选收的都是采自日本对外日语教科书以及报刊的使用频率高、外国人必须掌握的常用词语和惯用型。按难易程度分为E--A五个等级。

第一部分为全书目录。

第二部分为常用词语。选收意义较多、又很难用汉语直译出来的常用词语,先用选择填空形式提出问题,然后逐条解释含义和用法,再配以例句以助理解,最后编排若干练习进入实际应用。

第三部分为惯用型。除解释、例句、练习外，还对近义惯用型的使用差别和误用例加注提示。在各级的最后部分配有综合练习题。

第四部分为自测练习。把学习日语的外国人较难掌握的副词、拟态词、惯用词组、谚语编排到练习中去，强化读者对这些语言形式的理解。

第五部分为索引。

本书由北京语言文化大学出国留学培训部教师
向“日语能力试验”（1级·2级）考生推荐。

北京语言文化大学出国留学培训部

马心丹

2002年5月

この本を使うみなさんへ

この本は独力で、しかもできるだけ速く日本語能力試験
1級・2級の準備をしたいという外国人のみなさんのため
に作られています。

この本には次のような特長があります。

1. よく使われる日本語の表現文型、慣用表現、また、
副詞などの使いにくい言葉の用法を知ることがで
きる。
2. 文型や言葉の解説はポイントだけで短く簡潔だが、
例文を読み、その後ドリルを解けば表現や言葉の
意味と使い方がわかる。
3. 文型や言葉はやさしいものから、難しいものへと
順番に出されているので、実力をだんだんに高め
ていくことができる。
4. ドリルの答は必ず同じ頁の下に書いてあるので、
どこでも、例えば電車の中でも、楽に勉強するこ
とができる。
5. ドリルの各問題は、その問題のポイントの解説が
どこに書いてあるかを示してあるので、まちがえ
た時はすぐ復習することができる。
6. 「基本文」「例文」には日本人アナウンサーによる
録音テープがある。標準日本語をくり返し聞いて
耳の練習をすれば、聴解テストの準備にもなる。

この本の構成

I：日本語表現のポイント

日本語でよく用いられる表現文型や使いにくい語を集め、易しいものから難しいものへとレベル順に提出してある。

レベルは2級五段階(E→A)、1級五段階(E→A)の計十段階に分けられている。

取りあげた文型、語は主要日本語教科書及び新聞などの資料に基づいている。教科書の中に多く取り入れられているものを必修項目とし(2級レベルE)、取り入れられている頻度は高くないが重要だと思われるものを、最高レベル(1級レベルA)と定めた。

各項目は次の部分から成る。

①基本文型……例題の形で提出してある。

②【ポイント】……簡単な解説。例文・ドリル演習による理解をねらっているので、説明は最小限にとどめた。
< >の中に多く使われる形の作り方を示してある。

(例) < A 。ところが B >

下線部はA、Bが文であることを示す。

[] に、他の語による言い換え、類似表現などを示した。

③用例文

基本的な用例を文で示した。

(特に注意すべきことは 主 マークで解説した)

④【ドリル】

⑤解答……各頁の下欄に記されている。

各レベルの終わりには「総合ドリル」を設けた。ここで学習者は自分の理解度をチェックすることができる。各問には該当する項目の番号あるいは基本文番号を明示し、容易にフィードバックができるようにした。

ドリルの解答は全て問題と同一の頁の下欄に記してある。

II：言葉シリーズ

形式名詞や、形の類似した紛らわしい表現を集め、用例を示した。

本文に入る前にまず「スタートドリル」で自分の力をチェックし、本文を学習した後は「応用ドリル」で理解度を知ることができる。

III：慣用句、重ね言葉シリーズ

慣用句と言語を繰り返す表現(例：押しも押されぬ)の意味と用例文を全篇に挿入した。

IV：読み物

読解の練習、並びに最新の日本事情を知ることが目的としている。

V：クイズ

擬態語のクイズ、慣用句のクイズ、難しい語彙のクイズ、諺クイズ 等。

なお、本書作製に際して、日本語教育の現場から貴重なご助言をいただいた本間克彦先生、藤井和子先生をはじめ、各機関の諸先生方に心よりお礼を申し上げます。

日本語能力試験（1級）の問題分析

「能力試験に出題された項目」を見ればわかるように、能力試験に出題されたもののほとんどはこの速修シリーズにとりあげてある。この本およびテープによって、能力試験は**万全**^{ばんぜん}の対策ができるはずである。

実際の試験にはどんな問題がどんな形で出題されるのか、以下分野別に見ていこう。

文字・語彙

問：漢字の読みの問題

(例) 図書館では本を貸しますが……。

1. とうしょうかん
2. とうしょかん
3. としょうかん
4. としょかん

この問題では、おくりがなの出題はない。「つ」と「っ」の書き分け、「ゐ」があるかどうか、長い音か短い音かに気を付けること。日ごろ発音に気を付けて、正しい発音を身につけるようにしておくといよい。

問：同じ読み方を選ぶ問題

(例) あの先生の講義は面白い。

1. 合議
2. 後記
3. 行為
4. 抗議

これは問題文中の漢字の読み方が分からなければ、できない問題で、意味で答を探すことはできない。とまどう人も多いと思うが、出題される漢字熟語はそれ

ほど難しくないので落ち着いて探すこと。意味に関係がないのだから文を読まなくても下線の語だけをみて答を探すことも出来るので考えこまずに漢字だけを見て解答したほうがよい。

問：似ている漢字の中から正しいものを探す問題

(例) かんきやくは、さかんに拍手をした。

1. 歓客 2. 館客 3. 勧客 4. 観客

「効」と「郊」・「積」と「績」・「建てる」と「立てる」などの使い分けを勉強しておくことよい。問題文にひらがなが多いので読みまちがえのないようにゆっくりと、2、3回読んでみる。又、4つの答の漢字はまぎらわしいものが多いので、漢字の意味を考えながら正確に見分けること。

問：同じ漢字を選ぶ問題

(例) そのチームはあつとう的な強さだった。

1. 選手がてんとうしてけがをした。
2. 病気なのでとうぶん学校を休みます。
3. 家では牛を百とう飼っている。
4. 十時に目的地にとうちやくした。

この問題は複雑に見えるが、4つの答のうち、まぎらわしいものは2つしかないので、まず4つの答をみて同じ様なものを2つ見つけ出し、どちらが問題文の漢字と同じかをみれば、楽に答がわかる。例えば上の例では「とう」を書いてみる。「1. 倒 2. 当 3. 頭 4. 到」となる。このうち、2.と3.はちがうものなので、

正解は 1. か 4. ということになる。次に問題文をみて、この「とう」がどちらであるかをみればよい。

問：適当な言葉を選ぶ、語彙の問題

(例) 日本は昔から中国の影響を_____てきた。

1. とって 2. もって 3. うけて 4. とらえて

1990年度には慣用句が多く出題されたが、1991年度は、慣用句よりも正しい言葉の使い方を試す問題が多い。外来語は毎年必ず1題、出されているが、コミュニケーション、ユーモアなどよく使われるものばかりである。外来語の正しい書き方までは要求されないの
で、外来語に弱い人でも、それほど難しいとは思えないだろう。

問：例と同じ使い方を見つける問題

(例) 飛ばす……間をぬかして先に進む

1. 今度の台風で屋根が飛ばされた家があったということだ。
2. 高速道路を時速 100キロのスピードで飛ばした。
3. 仕事上のミスで、本店から支店に飛ばされた。
4. 時間がなかったので、ところどころ飛ばして読んだ。

これは説明の文を読んで、同じ使い方を探すもの。

4つの答を正確に理解することが必要。

読解・文法

文法といっても文法だけの出題はなく、主にまとまった文を読んで理解する力を試す問題である。正しい言葉を選ぶ問題は特にこの速修シリーズで勉強すれば、90%以上の得点があげられるにちがいない。

問：これは30行程度の長文を読んで、例のような間に答える問題。

(例)「ボタンが押されるまで」とはどういうことか。

1.2.3.4.から最も適当なものを一つ選びなさい。

- 1.猫の飼い主がボタンを押すまで
- 2.だれかが乗ってきてボタンを押すまで
- 3.だれかが乗ろうとしてボタンを押すまで
- 4.猫がボタンを押すまで

文がかなり長いので、まず問にさっと目を通し、その答を探しながら本文を読むといい。1級では、1990年、1991年度の34問中、内容を理解しているかどうかをみる出題が19題(50%以上)。文中の指示の言葉「これ、それ」が何をさしているかを答えさせる問題が7問あった。この「これ、それ」を問う問題は1991年度は前年よりずっと多くなっている。今後とも多くなるだろう。文の主語や動作をしたのは誰かなどを問う問題、文のだいたいの意味だけでなく、細かい部分も正確に理解したかどうか試される。出題傾向としては、

少しやさしめの文と難しめの文が出されるので、両方にさっと目を通してやりやすい方の間から始めるようにするとよい。

＜文の出典＞

1990年 新聞記事、講談社現代新書

1991年 平凡社「太陽」

文のテーマ

日常、新聞やニュースで話題になっているものが多い。日本人が今、どんなことに関心を持ち、その問題についてどう考えているかを知っておかなければならない。日本人大学生が常識としているような知識・日本人の価値観などに常に注意している必要がある。新聞記事では一時的に話題になってすぐ消えてゆくものは出題されない。経済・政治に関する問題は今のところほとんどない。また、週刊誌や若者向けの軽い読み物からの出題もない。一般的に文化的・学問的なものが多く出題されている。

問：数行の文を読んで一つの問に答える問題

(例)「それ」とは、何のことか。

1.批評 2.人の眼 3.規制 4.行動

これも先に問を読んでから本文中から答を探すといふ。1991年度2級にはかなり色々の種類の文が出された。

例えば、手紙文を読んで、礼状か招待状かわびの文かを問うものや文の筆者は女性か男性かを問うものである。ふだんから様々の種類の文を読んでおくといふ。出典は高校の教科書から単行本まで様々である。

文の細部はわからなくても、ポイントを速く理解する速読法を身につける必要があるだろう。

問：正しい言葉を選ぶ問題

(例) 店の装飾やサービスに一流の店_____の品が感じられる。

1. であれ 2. ならでは 3. らしき 4. ごとき

聴解

録音の状態が悪いのか、会場の音響効果が悪いのか、席の位置によっては聞きとりにくいという声が聞かれる。会場が静かにならないうちに始まることもあるかもしれないので注意が必要。しかし問題は難しくないので集中して聞けば、かなりの得点があげられる。

問題が変わるごとに「例」の練習があるので、よく注意してテープの音に慣れるようにすること。また時間が長いので(45分)途中から疲れてしまわないように、ふだんからこの位テープを聞いても疲れないように練習をしておくといい。

問：絵を見ながら会話を聞き、その内容に合うものを選ぶ。

会話の前後に一回ずつ問題が読まれる。問題をよく聞いて、それに関係ある要点だけをメモするといひ。問に関係ない部分はわからなくても気にすることはなく、全体の流れを聞きとるようにする。この形式の問題は1991年度には出題数が減っている。(5～6分)

問題の形式としては、絵をテープの内容の順番に並べるものと、テープの内容に合ったものを1つ選ぶものがある。理科学的な内容のものが毎年1つ出題されるが、

これは言葉が難しいだけで内容は簡単なのでびっくりしないで、冷静に聞くこと。テープの内容に合うグラフを選ぶ出題も必ず1題ある。次の問題にうつる前に、時間があれば次の絵を見ておくと早く理解できる。

問：絵がなく、テープを聞いてその内容に合ったものを選ぶ。20分位かかる。1991年度には絵を使う問題が減り、絵のない出題がふえている。

これも問題が会話の前後に1回ずつ読まれるので要点だけをメモし、その他は無視する。

会話の場面は、パーティー、ハイキング等のうち合わせ、論文についての相談、大学の講義など、大学、大学生活に関するものが多い。社会的場面では、会社内での電話の応対・伝言などがある。又、デパート・駅などのアナウンス、お知らせの聞き取りもたびたび出題される。

ラジオニュースが1題ある。ラジオの料理番組、ディスクジョッキー、インタビューなども出る。全体にあまりややこしいものはないので、前のテストのテープで練習しておけば、簡単にできるだろう。